

地域リハビリテーション活動支援事業に関する

Q&A

※各講師に依頼して回答を掲載していますが、都合により全ての質問を掲載しているわけではありませんので、ご了承ください。

※似たようなご質問については、あわせて回答しているものもあります。

■ 呉市に関すること

Q 呉市のふれあい・いきいきサロン（地域サロン）で、リハビリテーション職が関わっているところはいくつありますか。

A （回答：呉市）

地域サロンの活動内容はサロンにお任せしています。サロンによってはリハビリテーション職等に直接依頼している場合もありますが、呉市として数の把握はしておりません。

Q 地域リハビリテーション活動支援事業へ協力する専門職の「質の担保」については、呉市独自の仕組み・制度を考えていますか。

A （回答：呉市）

協力いただける専門職や関係機関向けに、研修や情報交換会等を開催したいと考えていますが、今後、リハビリテーション広域支援センター、リハビリテーションサポートセンターにご意見をいただきながら仕組みづくりをしてまいります。

Q リハビリテーション専門職の協力による地域展開について、呉市では今まで行っていなかったのですか。

A （回答：呉市）

これまでは、呉市が実施する介護予防教室及び自主的な運動グループ活動を中心にご協力をいただけてきました。

今後は、これまでの活動にあわせて、「呉市地域リハビリテーション活動支援事業」により、高齢者が生活する身近な地域において、「心身機能」「活動」「参加」のそれぞれの要素にバランスよくアプローチし、高齢者が要介護状態等となることを予防する取組を開始します。

リハビリテーション専門職等の方々が、より効果的に住民主体の通いの場等を支援していただけることを期待しています。

■サポートセンターに関すること

Q 広島県リハビリテーション支援センター、広域支援センター、サポートセンターについて

① 3つにわけるのはなぜですか。また、県として強化したいのはどれですか。

A (回答：広島県)

他県等の支援体制を参考にして、地域リハビリテーションの事業を推進するために、中核となる県リハビリテーション支援センターを1箇所、また、二次医療圏ごとに1箇所ずつ広域支援センターを指定した経緯があります。

県としては、これらの3層構造からなる地域リハビリテーションの支援体制を強化する必要があると考えています。

Q ② 登録すると、所属先にどのようなメリットがありますか。

A (回答：広島県)

登録されている施設は、病院や施設の所属長が地域リハビリテーションを理解し、熱意をもって取り組んでいただいている施設であり、地域に協力している施設として指定されます。

Q ③ サポートセンターになるにはどうしたら良いですか。

A (回答：広島県)

指定要件を満たしているか確認し、満たしている場合は、申請書を県又は県保健所に提出してください。

施設の所在地が広島市内の場合は県庁の地域包括ケア・高齢者支援課へ提出し、それ以外の場合は、最寄りの県保健所へ提出してください。

■リハビリテーション専門職等の地域派遣に関すること

Q 病院のセラピストが地域に出て行くときに、上司にどのように相談すれば良いでしょうか。

- A (回答：地域づくりによる介護予防推進支援事業に係る広島県密着アドバイザー)
- 療法士が地域に出て活動することは、施設・法人としての大きな社会貢献になります。
- 特に、回復期リハビリテーション病棟を有するような施設であれば、退院支援する患者さんが自宅に帰られる際に、その地域の通いの場に関わっていることで、退院先の一つの選択肢として紹介することもできます。リハビリテーションの目指すべき活動・参加に関われる機会でもありますし、施設の地域内での評判は確実にあがります。
- 一方で、事務方は理解しがたいことでもあるので、病院療法士として単位算定との兼ね合いがあるのも事実と思います。まずは遠くではなく、自施設のある地域包括圏域内の介護予防の協力から開始してみたいかがでしょうか。

Q 介護予防に関わるリハビリテーション専門職を増やしていくために工夫されていることを教えてください。

- A (回答：地域づくりによる介護予防推進支援事業に係る広島県密着アドバイザー)
- ①所属機関の公認（院長・事務長・他部署など）を得ること
 - ②近隣での仲間を増やす働きかけ（研修会の開催、見学への声掛け）
 - ③賛同してくれる他施設とのネットワークの構築（メーリングリストの作成、サイボウズの活用など）
 - ④リハビリテーション専門職だけの集まりだけではなく、行政・地域包括も巻き込んだ情報交換会の定期開催
- 当院（今田講師が所属する荒木脳神経外科 広島県地域リハビリテーション広域支援センター 広島市西区）では、広域支援センターとして、また広島市西区のリハビリテーション専門職側窓口施設として、②・③・④に取り組んできました。

■支援内容に関すること

Q 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など、それぞれが出て支援できる内容を検討していますか。

A (回答：呉市)

参加者の身体評価や技術的指導のほか、適宜、口腔や栄養などに関するプログラムを取り入れるなど、様々な専門職の方々に支援してもらえるよう取り組んでいく予定です。

Q 立ち上げ、継続などいろいろな支援がありますが、月にどのくらいのペースでの派遣になりますか。

A (回答：呉市)

地域の住民主体の通いの場の数によって異なります。

しかし、1箇所当たりの専門職の派遣は、初年度4回、継続年度2回を上限としています。

Q 通いの場は体操が主なので、理学療法士、作業療法士が派遣されます。今後、言語聴覚士が通いの場等、地域に出て介護予防に携わることができるでしょうか。また、言語聴覚士に期待していることはありますか。

A (回答：地域づくりによる介護予防推進支援事業に係る広島県密着アドバイザー、広島県)

通いの場は、体操が表向きの動機となっはいますが、「人と人とのつながり、互助の育成の場」が本来の目的です。そこには、当然コミュニケーションが必要になるので、言語聴覚士が必要ないということではありません。

「いきいき百歳体操」シリーズには、口腔機能向上を目的とした「かみかみ百歳体操」、認知機能向上を目的とした二重課題である「しゃきしゃき百歳体操」もあるので、そのあたりの動機付けでは、当然活躍できると思いますし、実際に活動されている言語聴覚士も多数います。むしろ、各地域包括支援センターに「言語聴覚士はこういったことができますよ。」とアピールされてもいいかもしれません。

県内でも、通いの場で「かみかみ百歳体操」を実施し、その際に言語聴覚士や歯科衛生士からの指導を取り入れられている市町もあります。

Q リハビリテーション専門職が、担当者会議等で情報提供する際に工夫した方が良い点があれば教えてください。

A (回答：ケアマネマイスター広島)

以下のことを、本人・家族や介護支援専門員に理解できる言葉で説明していただくと助かります。

- ①疾病に関すること
- ②ADLの改善・悪化に関する予後予測
- ③日常生活上の注意点
- ④改善に向けた取組のポイント